

令和7年度第2回白井市まち・ひと・しごと創生審議会

日 時：令和7年12月17日（水）午後1時から

場 所：白井市役所本庁舎2階災害対策室2・3

出席者：【委員】

高尾 公矢会長、山田 壽一副会長、伊藤 治委員、岡田 光一委員、  
中村 龍二委員、土肥 剛委員、河野 はるか委員、神山 真季委員

【事務局】

企画政策課 村越課長、齋藤係長、菅原主任主事、飯田主任主事

1 開会

2 議題

(1) 白井市第3次まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案について

【会長】

本日は、お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

今回の審議会では、白井市第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略に関わります白井市第3次まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案が示されております。その素案につきましての審議ということになります。委員の皆様方におかれましては、忌憚のない御質問、御意見を伺いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、議題1です。

白井市第3次まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案についてです。事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

素案に沿って説明

【会長】

ただいま事務局から素案につきまして説明がありました。委員の皆様方から御質問、御意見があれば、お願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

【委員】

まちに人口を増やすと言いますが、ベッドタウンで人口を増やしても、まちは疲弊するばかりなので、関係人口を増やして、人が集まってくる魅力あるまちをつくるというのが重要だと思います。国の施策では、デジタル構想ということで、デジタル構想に沿って人が集まってくるようなまちをどうやってつくったらいいのかということを考えていき、様々なアイデアを求められたらどうかと思います。

**【会長】**

全体的な意見としては、そのとおりだと思いますけれども、素案では具体的な施策や目標が示されているわけですが、それについては、いかがでしょうか。

**【委員】**

素案については、特に問題ないと思います。

**【会長】**

ありがとうございます。ほかに忌憚のない御意見をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

**【委員】**

素案についてですが、分かりやすくまとまっていて、知識のない者でも分かるような目標になっていると思いました。

また、第2次するときにはなかったライフイベントを迎えられるための支援とか、外国人居住者に向けての支援といった内容が盛り込まれていたのが、個人的にはうれしかったです。そういうことを今までの審議会で言っていたので、より広い世代、より広い人に対しての施策が盛り込まれているなと思いました。ただ、これを具体的にどうやって広めていくかということが今後の課題にはなると思います。この素案自体は、とても分かりやすくまとまっていたと思います。

**【会長】**

事務局の方から委員へコメントをお願いします。

**【事務局】**

具体的な事業では、素案の15ページで、若い世代がライフイベントを安心して迎えられるための支援ということを記載しており、次代を担う世代のライフデザインの支援事業というのが当たるかと思います。

この事業は新規事業で、これまでの少子化に歯止めをかけて、若い世代が定住する以前から支援し、安心して生活ができるための支援ということで、こちらの事業をつくっております。

事業の内容ですが、例えば市内の高校生を対象にライフデザインセミナーを開催したり、プレコンセプションケアということで妊娠を希望する女性に対して面談を実施して、葉酸サプリを配ったりとか、若い世代の結婚生活を支援するための新生活のスタートアップにかかる費用の一部補助していく事業で、次代を担う世代のライフデザイン支援事業ということで、今までもありましたが、拡充し新規事業としております。

**【委員】**

今、国全体で少子高齢化が進んでいます。全体として出産が減っているとかということ

の背景に、例えば結婚をしない選択があり、子供を産まない選択があるというのがあると思うのですが、それはもちろん尊重されるべきだとは思っています。

ただ、高校生の段階から、結婚したくなるとか、人生をどのように歩いていくか、なぜ結婚したくない人が増えるのか、なぜ子育てをしたくない人が増えるのかということ自体を解消していくことが、とても大事だと思っています。

逆に、結婚しないとか、子供を産まないというふうにした人たちが、社会の中にいる子供たちをどうやって支援していくかという体制をつくることも、やっぱり行政の大事なところだと思うので、ライフデザインセミナーを高校生から実施するというのは、とてもすばらしいと思いました。

#### 【会長】

他に御意見ありますか。

#### 【委員】

素案の内容は、とても分かりやすかったです。

ただ、何点か気になっていて、そこを伝えさせていただきます。まず、基本目標の一つの、「地方に仕事をつくる」というところの具体的施策です。農業に関することが目標値として10ページの具体的施策の持続可能な農業の実現というのがありますが、農業に関しての目標値が1桁の施策というのが多くて、目標が3人であったり、2社であったりするため、市のお金を投入してまで事業を実施する必要があるというのが、市民に伝わりにくいと思います。3人増やす、2社増やすというのは実際に大変かもしれません。しかしながら、3人のために、2社のために、税金を使用するだけではなく、何か一つでもいいから、これによって白井市の経済が良くなる、白井市の税収が上がるなど、私たちの生活が潤う内容であったほうが良いと思いました。

次に、15ページの結婚・出産・子育ての希望をかなえる部分です。高校生向けにライフデザインセミナーをするというのは素敵だなと思ったのですが、高校生以外の場合は、平日に時間を割いて若者がライフデザインについて考えるのは、かなりハードルが高いと思います。例えばランチを食べながら若者が交流し、いつの間にかライフデザインについて興味を持ち、白井市っていいなと思ってもらえるような施策で、この目標値の満足度を超えるようになれば良いなと思いました。

最後ですが、18ページの地域の魅力を活かした持続的なまちづくりの部分です。具体的施策で通訳やボランティア制度の活用とあるのですが、こういうことこそ仕事として、市内の就業をつくるべきだと思っています。ボランティアや地域住民のチャレンジなど、無償労働に頼って発展させるというのは、いまの時代には合っていない気がします。今の若者は、正直ボランティアをするような余裕はないと思います。ボランティアや無償労働で白井市を盛り上げるのではなくて、今までボランティアだったところに企業が入っていつ

て、そこで就業を増やし、賃金が発生して、お金の流れや人の流れがつかれるような魅力的な地域をつくる仕組みをつくっていただけたら、市民としては、とてもうれしいです。

**【会長】**

非常に市民の声が反映される意見だったというふうに思いますので、重要な意見だと思います。他に意見ありますか。

**【委員】**

この、まち・ひと・しごと、この近隣の各自治体、もっと大きく言えば、全国のどこの自治体も、人口の増加ですとか税収増を見込んで、こういうような計画を立てている中で、果たして白井市が、どうやってこれからその目標に向かって、白井市の特色を生かしてやっていけるかというところが本当に重要なところだと思っています。

それで、今この中の計画で私が思ったのは、11ページのところです。企業誘致とか、この辺のところは非常に重要だと思うのですが、私が少し足りないなと思っているのは、市民の方々が、ポテンシャルのある今、国道464号線が北千葉道路とつながってというような計画があります。その沿道は、これから発展していくのだと思うのですが、その際に、企業が進出してきた際に、きちんと市民の方々がそこで働けるような、そんなような仕組みができると、若い世代の方々も、子育てをしながら近場で働くこともできたりとかということが可能になってくるのではないかなと思っています。

11ページのところについてですが、重要業績評価指標で、にぎわいをもたらす企業誘致着手数というのがありますが、当然、駅前を活性化するとか、そういったことは必要だとは思いますが、新しいまちづくりができれば、最初は活性化するのは当然だと思います。あとは、それをどう継続してやっていけるかというところが、重要だと思いますので、駅前に加え沿道でそういう市民の方々が働けるような、そのような企業を誘致できるようになるといいと思っています。

**【会長】**

そうですね。今の白井市の課題です。仕事が無いため、若者たちが市外に出ていくわけです。それで人口が減少しているわけだから、若い主婦の方も含めて、雇用があれば、ここに留まると思います。そういう意味では、工業団地がその仕事のマッチングが従来からうまくいくのかどうかということが課題になるというようなことは、前から言われています。雇用がないことはないのだけれども、マッチングがうまくいかないというようなことを聞きます。工業団地は、特にそういう技術を持った人を要求しているというようなことがあって、なかなかうまくいかないということも聞きます。そのため、今度新しい産業が入ってくれば、またやり方があろうかというふうに思いますね。

他に意見があれば、発言をお願いします、いかがでしょうか。

## 【委員】

今回、第3次ということで資料をもらったのですが、第1次、第2次があり、第3次と継続性ということも大事だと思うのですが、第1次の部分では、目指すべき方向性がある、それに対する基本目標が1次、2次にあり、そのときの基本目標のところの表というか枠なのですが、そこには若い世代が定住するまちづくり、人を魅了するまちづくり、産業が活性を生み出すまちづくり、住み続けたいまちづくりという大きな枠があったのですが、今回それを踏襲しているのかと思っていたら、新たなものが出されて、持続可能な地域産業の強化と新たなにぎわいの創出等々、4つに変わっておりました。

つまり、今まで1次、2次があって、それぞれに対する目標値があって、PDCAがあったのですが、今度、第3次の場合に、この項目で見ると大分変わってきており、それを継続しての確認をしようと思ったときに、ほとんど載っていないので、大変残念でした。

もちろん今回の9ページに書いてある国のデジタル田園都市国家構想総合戦略があって、第6次総合計画の中での枠組みで、このように変更したと思うのですが、もし、変更しなく、もともとの4つの枠をもって、もし連携できるならば、そちらのほうが継続性として、よかったように思っています。もちろん前回の部分で重要な部分もあるのですが、今回、この具体的なものを見ても、数的に継続していないところがあるので、それはどうなったのか、いわゆるPDCAに反するような気がする。一応、1次、2次であったものは、第3次でも、項目だけでもどこかに割り振られると思いますので、それを継続していたほうが、継続性としてあるのではないかというように思ったのです。

あと、ホームページで、第3次まち・ひと・しごと創生総合戦略についてというのを見ました。その中で、第3に策定に当たっての視点というのが書かれてありまして、そこでは4項目あり、4番目がデジタル基盤の整備というのがあるのですが、今回の目指すべき方向の中に、デジタルという部分がなくなっており、これ第2次の際にあったのですが、第3次でなくなっているのですが、これは基本的な考え方の中にいわゆるデジタル構想云々というのが出てくるので、これを入れなくてもいいのかなということなのか、その辺をちょっとお伺いしたいと思います。

## 【会長】

事務局から回答をお願いします。

## 【事務局】

貴重な御意見をありがとうございます。

まず、最初にお話のあった第1次、第2次の継続性の話なのですが、私自身も、継続できるものは、継続は入れているつもりでございまして、先ほどちょっと申し上げました第1次、第2次というのが、第5次基本計画、市の総合基本計画と整合性が取れているような形の仕組みになっています。

今回、10年ぶりに、第5次から第6次に総合計画が変わっておりますので、私も第5次の総合計画の継続できるものは、なるべく第2次の総合戦略で入れたつもりではいるのですが、やはり新しい次の10年間ということで、第6次総合計画が令和8年度から動いていく上で、第6次総合計画の部分も、こちらの第3次に溶け込ませていく上で、その整合性を図っていければというふうに思い、引用できる部分は引用して、第6次の新しい総合計画にニュアンスを合わせたような形の総合戦略というふうに御認識いただければ幸いです。

2点目のデジタル分野なのですけれども、農業のDXとか、教育のDXとか、各分野の中で、DXのデジタル田園都市の基づくものというのは、事業の中には入れていまして、その施策の方向性です。例えば具体的な施策では、10ページに持続可能な農業の実現ということで、デジタル技術を活用したスマート農業による社会実装体制の構築であったり、教育分野であれば、16ページの3番の子供の生き抜く力を育む環境づくりということで、情報通信技術を活用した分野で教育ができる環境の整備を進める等、デジタル分野を入れております。

事務局としても、デジタル技術というのが今後、発展の余地があると思っています。そのため、全ての目標の中に、ピンポイントで、デジタル技術というのを入れていまして、それをデジタル国家構想の中の今後の交付金に充てることができるようにと作成しておりますので、そういった意味で御認識いただけると幸いです。

**【委員】**

もう1点は、デジタルでのセキュリティー強化についてはどのような対策をしていますか。

**【事務局】**

セキュリティー強化というのは、デジタル技術が加速することによって、一方でそういった分野というのは、今後、生まれてくると思います。そういったものを事業化できるかどうかはあれとして、今後の参考として、次の5年間、そういった部分が活用できる。うちも国の施策の中で、それが対象になってくれればあれかなと思うのですけれども、そういった意味で、参考とさせてもらって、できる部分に関しては、していきたいなというふうに思っております。

**【会長】**

他の方はいかがでしょうか。

**【委員】**

御説明ありがとうございました。非常に分かりやすくまとまっているかと思いますが、少し気になった点を教えていただければと思っています。

企業誘致に関しては、岡田委員がおっしゃられたとおり、工業団地が白井市の強みだと

思いますので、引き続きそちらを活用すべく企業誘致を進めていくことが、人口増加等々にもつながっていくかと思っておりますので、特に強めてもらえればと思います。

一方で、もともと事業をされていない方、創業者を支援する仕組みというのは非常に大事かと思っております、12ページのこういったライフスタイルに沿った多様な働き方の支援というの、大事だと思っております。

コワーキング活動拠点を今回、新しく計画していくということのようなのですが、場所とか、思いとか構想があれば、御教示いただければと思います。

また、14ページの美しい環境の保全というところで、白井市を選んでいただく上では、美しいまちというのが非常に大事なのかなと思っております。

最後、住宅の誘致というところで、再生というものもありますが、人口増加や出生数を増やしていく上では、新しい世帯に入っていただくのが非常に大事かと思っております。

私からは以上です。

#### 【事務局】

先ほどあったコワーキング活動拠点の想定なのですが、現時点で具体的にこのことといったものはないです。

ただし、白井駅前と西白井駅前の在り方の検討とか、また、公共施設の最適配置等、検討しております、その中でどう生み出していくか。あと、市で整備するのか、それとも民間の活力を使うのか等、そこら辺をいろいろと模索しているといったところです。

先ほど岡田委員からありましたとおり、やっぱり白井市は、雇用をいかにつくるかといったところが大事な課題になっていまして、その中で、こういったものを生み出していきたいといったところで、指標として作っているところとなります。

#### 【会長】

他に御意見を申し上げます。

#### 【委員】

白井市ってポテンシャルがあるのにもったいないなと常々思っております。私は成田在住で、今の勤務地の前が銚子です。成田はそれなりに産業もあります。銚子は逆に産業がなくて、一生懸命、例の洋上風力を誘致して、頓挫している状況です。白井は工業団地があるので、そこをうまく活用するようにしたほうが良いと思う。白井市は、梨もあるし、土地もあるし、東京に近いし、成田に近いしなんて、やり方次第だと思います。素案については特に問題ありません。

#### 【委員】

他の委員からも発言がありましたけれども、工業団地へのバスも本数が極めて少ない。そのため、マイカーで行く以外の手段で工業団地に行こうと思うと本当に大変です。そのため、工業団地の企業に勤めてもいいなと思っても、免許がないから諦めるというケース

もあると聞いています。このような問題を改善していこうという気概を持って取り組んでもらいたいと思います。

それと、工業団地内の道路についてですが、工業団地の中なのに、大型車が通行できないというところがありますので、その問題を何とか解決しようというふうにチャレンジをし続けてほしいです。

私としては、白井市のポテンシャル、地の利を生かすという施策を考えていくべきだと思うのです。多くの知恵を集めて、市だけでできなければ、県を動かす、国を動かすぐらいの気概で取り組んでほしいです。白井市は物流の要衝の地となり、要になっています。そういったところを利用してほしいです。

#### 【会長】

他の方、何かありましたら、お願いします。

#### 【伊藤委員】

まず、こちらの具体的施策で農業が一番に挙げられていて、とても恐縮なのですが、昨今は、優良農地の減少や担い手不足が加速しています。私がこの会議に出させていただいてから、ようやく現実味を帯びてきていまして、私たちの父世代、大体70歳から80歳くらいの方が、どんどん廃業なり縮小なりになってきております。

こういうデジタル技術等という話もありますが、デジタル技術を応用するものであれば、今、労働力不足、特に農業の場合は、短期的な労働力が必要になる場合が多いので、農業版、特に白井市でのタイミーみたいな形で、労働力を補えるようなアプリ等を開発していただくと、一助になると思いますので、そのようなものは、他のところではあったりするのですけれども、白井市で、近場の人で、時間があり、農業に興味があるという方がいて、その方とコミュニケーション等を取れるようになることは良いと思う。そういう小さいことからやっていかれて、大きいところは、白井市は梨が中心にありますが、田、畑、他の果樹等あります。そのようなものを1つにまとめて維持できるような仕組みや組織ができると良いと思っております。

#### 【会長】

それでは、私のほうから、意見いたします。

この基になった前期基本計画について、将来に対する熱意や現状の認識をもう少し厚くしてほしかった。なぜかという、ニュータウンの宿命として開発が終了すると人口が停滞して、一定の時期を超えると減少し始める。少子高齢化が進んでいくのが当たり前なので、その点について、今までよりもさらに危機感を持って事業に取り組んでもらいたい。

基となっている総合計画を実行し、さらに発展させていくのがこの審議会に関わっている総合戦略であると思っている。一応、実効策を具体的に書いてはあるが、これで人口が増えていくというのは厳しいところがある。

一つ、事務局に質問ですが、13ページの大学の進学時から就職まで白井市に定住する若い世代に対して、大学等の進学時に借りた教育ローンまたは奨学金の返済の一部を補助します。これは、行政のほうとしては、応募者はあると思いますか。どうですか。

**【事務局】**

このような制度は、白井市、野田市等、東葛ですとこの辺だけなので、踏み込んだ施策の一つではあります。現状でも毎年定期的に応募者は来ております。

**【会長】**

これをやる意味は大きいと思います。経済的に苦しい学生に対し、奨学金の一部補助をしてくれるというのはありがたい制度ではあります。実際にそんなには多くないのではないかと思います。

私は、現役のときに奨学金で保育士の、いわゆる授業料を補助するとかというのはありますよね。今でも幼稚園教諭の補助はあるのですけれども、応募者がほとんどいない。また、行政に応募する人は、3年間は、その市に勤めなきゃいけないということもある。

縛られるのが嫌だという人も多いので、「白井市に在住しろ」とかと言うと、応募者は減少してしまうのではないかなというのが私の意見です。

だから、そういうことも含めて。公募して、そういう人がいれば、それは助けてあげるということは重要なことですから、やる必要はあると思うのです。

**【会長】**

他に御意見がありましたら、お願いしたいと思います。

**【委員】**

先ほどの発言にもありましたが、白井市では農業については短期的な労働力が必要になることがあります。梨は非常に忙しい時期が夏季に集中します。知り合いの梨農家では「この時期だけ短期で働いていただけますか」と知り合いに声掛けを行う、いわば「簡易的なママ友版タイミー」というものもあると聞きます。

働けるママって実際に多いです。しかし、働ける時間が短い、長期休みや子どもの体調不良等、色々な理由があって、長期で働くことは結構難しいことも現実としてあります。白井市内で労働力を増やしたいのならば、タイミーのような形で単発的に働けるような仕組みを市として作り、子育てが優先できて、尚且つ働いて稼ぐことができる仕組みがあったら、魅力的だと思います。

**【会長】**

他に意見はありますか。

**【委員】**

白井工業団地のアクセスの件なのですが、大手の企業の場合には、自社でもって送迎をしていると思うのですけれども、多分、小さいところは、送迎したくてもできないけれど

も、例えば工業団地として、朝晩とか共同でもって運行するというようなことは、やっているところは多いのですか。

**【委員】**

それに対しては、今、白井市の未来創造戦略室という部署が中心になって、自社バスを持っている事業者さん数社で共同運行みたいなものを作っていけないかという話は出てきています。ただ、具体的にはこれからです。

**【委員】**

私は、工業団地で営業していますが、基本的に従業員はマイカー通勤されています。駐車場の場所は、工場の中にもそんなに多くはないので非常に困っています。一つ提案として、工業団地内にモータープールを造って、モータープールから自動運転の循環バスで工業団地の中を循環するとか、そういうような構想を立てると、ユニークで面白いなと思っています。

**【会長】**

様々な意見が出ましたけれども、これで会議は終了したいと思いますが、皆さんに一つ確認しておきます。

今回の素案の件ですが、字句の修正、それから表現だとかというところの修正は、私と事務局にお任せいただきたいと思います。全体としましては、この素案で了承いただいたと理解しますが、それでよろしいでしょうか。

**【全員】**

特に異議なし

以上